

中学生が「身近な災害をイメージする【DIG 初級編】」に参加

6/18（日）池田交流センターで行われた「身近な災害をイメージする【DIG 初級編】講座」に、豊田中9年生が地域貢献活動の第一弾として参加しました。「DIG」とは、Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字をとって名付けられたもので、住民自らが地図を使って地域の防災対策を検討し、災害を想定しながらグループで行う「図上訓練」のことです。



まずは、昨年の台風15号の被災状況・災害活動を含めた映像を見た後、その時、①どこにいて②何をしていたか③どう思ったかを1人ずつ話していきました。その経験を踏まえた上で、自分たちが住む地域の地図を使って、DIGを行いました。グループに分かれ、自分たちの住む地域の地図に書き込みを加えながら、実際に起こりそうな災害を具体的にイメージして、災害時の対応を地域の方や、消防署、NPO、災害ボランティアさんたちと一緒に、中学生も考えていきました。



その後、グループごとに発表をしました。そして、このDIGにより、以下のような情報がまとまりました。



- 「どこで、どのくらいの規模の被害が予想されるのか？」
- ・「危険箇所や注意しなければならない施設は？」
- ・「何かあった時に役に立つ施設はどこにある？」
- ・「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか？」
- ・「近所に手助けが必要な人はいないか？」

これらの情報を地図に落とし込むことで、自分たちの住むまちを再確認、防災力を確認することにつながりました。作った防災マップは、いざという時に役立ちます。

生徒と一緒に考えてくださった地域の皆様、消防や災害ボランティアの皆様、ありがとうございました。

▼中学生の声

- ・危ないところを知ることができた。防災意識が高まった。このことについて今後も考えていきたい。
- ・災害はいつくるかわからないので、講座などに参加したり家族で確認したりして対策したい。